

(表2) 令和6年名古屋北労働基準監督署管内死亡災害一覧(1月~9月)

業種	発生日	性別	事故の型	労働災害発生状況
ビルメンテナンス業	1月	男	墜落・転落	建物巡回業務実施中、脚立にて廊下天井の電球を交換していたところバランスを崩し、高さ140cmほどから床面に墜落したものの。
その他小売業	3月	男	墜落・転落	2階建ての事務所の屋根にのぼり作業を行うため、屋根付近ではしごを固定する際に、はしごのロックが外れ縮んでしまいはしごが倒れ、屋根に近い高さ(約6m)から墜落したものの。
電気機械器具製造業	8月	男	交通事故	出張のため乗用車に乗り一人で移動中、名神高速道路下り線で渋滞の最後尾にて停車中に後方から走行してきたトラックに追突されたもの。

(表3) 事故の型別災害発生状況(1月~9月)
(件)

事故の型	令和6年 発生件数	令和5年 発生件数
墜落・転落	143(2)	104
転倒	232	213
激突	70	67
飛来・落下	32	35
崩壊・倒壊	23	20
激突され	24	29
はさまれ・巻き込まれ	90	80(1)
切れ・こすれ	37	35
踏み抜き	2	0
高温・低温の物との接触	32	22
有害物等との接触	2	2
感電	1	1
破裂	1	1
交通事故	51(1)	47(1)
動作の反動・無理な動作	86	109
その他	46	147
合計	872(3)	912(2)

()内は死亡者数で内数である。

となっており、労働災害の26・2%は転倒災害となつています。
年齢別で見ると、60歳以上の被災者が全体の30・4%を占め、65歳以上でも18・7%となつています。
事故の型で最も多い転倒災害232人のうち、60歳以上では109人(47・0%)の方が被災しており、65歳以上としても65人(28・0%)の方が転倒して被災しています。

うち60歳以上は40人(40・0%)、女性132人のうち60歳以上は69人(52・3%)となつています。
令和6年の全労働災害872件で見ると、男性509人、女性363人であり、男性509人のうち60歳以上は135人(26・5%)、女性363人のうち60歳以上は130人(35・8%)でした。

啓発
②労働者(中高年齢の女性を中心に)の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進
③高年齢労働者の労働災害防止対策の推進
④多様な働き方への対応や外国人労働者等の労働災害防止対策の推進
⑤個人事業主等に対する安全衛生対策の推進
⑥業種別の労働災害防止対策の推進
⑦労働者の健康確保対策の推進
⑧化学物質等による健康障害防止対策の推進
を掲げており、この8つに取り組みることにより死亡災害5%以上減少、

死傷災害の増加傾向に歯止めをかけ2027年までに減少させることを目標としていますが、②、③に掲げるように、行動災害や高年齢労働者対策は喫緊の課題となっております。ぜひご協力願います。

また、愛知労働局及び管下労働基準監督署では毎年、年末の慌ただしい時期を無事故で過ごすとうと、12月1日から12月31日までの期間「無災害みんなを迎える 明るい新年」をスローガンに職場の年末安全衛生推進運動を展開しています。当運動では、「守るべき基本」の作成と、その守るべき基本を「確実に守る」ことを求めています。ルールを策定・決定するとき、守るべき人に無理を強いていないか再度確認し、守るべき基本は確実に守れるよう労使双方で再確認願います。

そして労働災害の防止を推進し、明るく快適な職場環境を整えましょう。